

私にも 言わせて! 第166回

予防医学への志を胸に コロナ禍に始まった 保健所業務の軌跡

新潟県職員が本企画に掲載させていただくのは初めてと伺っており、今回その機会を頂けたことに感謝申し上げます。これまでを振り返りながら、考えていることや今後やりたいことを書いてみたいと思います。大したことは書いていませんが、何かのお役に立つことができれば幸いです。

公衆衛生医師になろうと 思った理由

この業界に入ると、周囲からそのような質問を受けることが多くあります。とはいえ、学生時代は大学卒業や国家試験合格が優先だと思い(笑)、どの道に進むか真剣に考え出したのは初期研修2年目の春くらいと記憶しています。

オーベン(先輩医師)と仲良しだから選ぶか、この診療科が強いから選ぶか、などと漠然と考えていた際に、「本当に患者の診療だけを行っていてよいのか」という疑問が

湧きました。医師として病気で苦しむ人を助けたいという気持ちは当然なのですが、予防医学や住民啓発などという観点も大事なのではという気持ちが次第に大きくなり、さまざまな観点から考え調べた後に今の道に進むことを決めました。

入庁後、コロナ禍での経験

世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し始めた2020年4月に新潟県に入庁しました。感染拡大防止のために新採用職員への研修は半日限り(例年だと1週間

の研修だそうです)、翌日から職場に入りました。

その頃から昨年度までは本庁で週4日程度、保健所で週1日という勤務体制で、たまに保健所に行っては保健所業務として、糖尿病・慢性腎臓病(CKD)対策や精神保健福祉の事業等を担当させていただきました。ただ、だんだんと新型コロナウイルスの影響が広がると、疫学調査や集団発生した施設で検査や調査を行うことが多く、その時は正直淡々とした仕事が多くあった印象を受けました。もちろんすべて大切なことではあるのですが、これが公衆衛生医師の仕事か、と少々疑問に思うこともあり

ました。その翌年、新型コロナワクチン接種の推進について庁内で検討が開始される際、プロジェクトチームの一員となり、大規模ワクチン

ろはあるか」とこれもまたよく聞かれるのですが、私自身としては大きくは変わらないと思っています。一方で、これまでのように県全体を考えると、地域にももう少し目線を配ることは違うところであり、地域の中で活動されている方々がどう動くのが最善かを考えています。幸いにも柏崎保健所管内(柏崎市および刈羽村)は、これ

までの業務で多々お世話になった地域であり、関係者も多くいることから、自身で課題等を見つけて所属内で話し、さまざまな関係者とお話しするということを大事にしながら、今の業務に励んでいます。

今までを振り返って思うこと

仕事も当然大事なのですが、大変なことも多く、私自身としてはプライベートでちょっとしたことで話せる相手がいることに感謝しています。いろいろな方とお会いしましたが、特に、仕事でたまにたま仲良くなり、いまだ東京でご飯などを食へに行ける友人、仕事仲間として思うことを教えてくれるデイズニー大好きな友人、そしてお互いのことをよく知り、気兼



新潟県柏崎地域振興局
健康福祉部地域保健課
主任
羽入 晋太郎

新潟県新潟市出身。秋田大学医学部を卒業後、秋田大学医学部附属病院、平鹿総合病院、および東京医科歯科大学附属病院(当時)で初期研修を修了。2020年4月より新潟県に入庁。コロナ禍では主に新型コロナワクチン関連の事業に従事。その後、がん医療、へき地医療、災害医療、オンライン診療、感染症対策等の担当に従事し、2026年4月より現職。保有資格:社会医学系専門医、日本公衆衛生学会専門家

接種センターの企画立案そのものに少しだけ関わらせていただきました。一方、ワクチン接種は県内さまざまな地域で実施するため、現場対応や統括という形で毎週土日 にさまざまな場所へも向かいました。その際は、事務職を含めいろいろな方とお話ししながら、安全かつ正確な運用となるよう努めました。

それ以外に、「ワクチン接種率を上げるには住民啓発以外に接種を行う医師に納得いただくかなければ接種が進まない」という観点から、「ワクチン副反応アドバイザーボード」というものを数か月に1度のペースで実施していました。おそらくゼロから自分である程度企画立案した会議体はこれが初めてであり、会議の進め方やさまざまな意見が出る可能性に多々不安ばかりが募りましたが、周囲

の助言や現場にいらっしゃる先生方に、たくさん助けていただきました。最初は正直荷が重く断るつもりでいた私を後押ししていただき、今振り返れば実施して本当によかったと思っています。

新型コロナの5類移行 前後の経験

ワクチン接種についてのプロジェクトが落ち着いた後は、引き続き医療施策に関する部署でがん医療や災害医療などに携わりました。その中で能登半島地震を経験し、県内でも対応せざるを得ない場面が発生したり、モデル事業として実施する施設などに介入したり、さまざまな現場の先生方にヒアリングを行ったりと多々ありました。いろいろな目線から考える必要があったため、上司にいろいろ指摘されて苦労も多かったですが、それぞれ何らかの形で事業の成果を得られたことはよかったと思っています。

2022年には、国立保健医療科学院専門課程Ⅰ(保健福祉行政管理分野分割前期)の研修に参加させていただき、全国の公衆衛

生医師の方々とお会いすることができました。ありがたいことに今も交流させていただき、(とはいえ、お話しできてない先生方が多く:すみません)半月後もお目にかかれるのを楽しみにしています。分割前期修了後は分割後期にも進ませてください、柿沼先生、森山先生、児玉先生に大変お世話になりました、特別研究論文を作成することができました。

分割後期が修了した後、2025年度には感染症担当部署(本庁)に異動となり、感染症発生動向調査や防疫(県内では今年1月から発生した麻しん対応も)、エイズ対策等の対応に当たりました。担当部署が大きく変わると不慣れなことも多くあり、もう少し勉強したかったという思いが大きかったのが正直なところでした。

保健所主体の業務への移行 そして現在

2026年4月に、これまでの勤務体制から変更となり、保健所主体の業務となりました。「本庁勤務メインなのと保健所メインでは、モチベーションなど変わったことこ

ねなく何でも話せる、英語が得意な高校同期の友人にはお世話になることが多く、ありがたい限りです。現在の周囲の温かい環境にも感謝ですし、毎日ニコニコ喜ぶことが多い5か月の男児と、たまには話し合うこともあります。がんばることがあっても明るく優しく接してくれる妻という家族に支えられていることに最も感謝しています。

今後について思うこと

ドラドラと思うところを書いてしまいましたが、これ以外にも今までやってきたことは多くあったと振り返りつつ過ごしています。

今後については、特にこれをものすごくやりたいという気持ちがあるというよりも、公衆衛生に関わることは多々あり、引き続きさまざまな分野を知っていかなければいけないと思っています。それはすなわち、入庁時と同じ気持ちであることに変わりはないと思います。チャレンジ精神を持ちつつも、職場内やいろいろな職種の方々とのコミュニケーションをなるべく大事にして、これからも日々頑張っていければと思っています。